生きる

読谷中学校一年　山内　天名羽

今この瞬間を大切に生きろ。あなたは、たった一度きりの人生をどんなふうに過ごしていますか。一つしかない命を大切にしていますか。

今年の六月。慰霊の日が近付き、学校では平和月間が始まり、玄関前では平和パネル展が催され、総合的な学習の時間には新聞の切り抜きを通して平和について考える時間をもちました。

私は、その一環として出された課題で戦争体験についてのレポートを書くことになりました。私の身近な人で、戦争を体験していたのは八十代になる祖父と祖母です。

そこで、戦争を体験した時の話をインタビューし、まとめることにしました。

アメリカ軍が上陸してきた当時、祖母は七歳。幼くとも、戦争に対しての危機感はあり今でもそのときのことは、鮮明に覚えている

コクヨ　ケ-19　20×20

そうです。

食べ物などをかばんにつめ、祖母は家族とともに逃げ、戦争が終わるまでは、山の中で過ごしていたそうです。

ある日、川に食器を洗いに行ったとき、通りかかったアメリカ軍につかまり、避難小屋のようなところに連れて行かれたといいます。その時の恐怖心は計り知れません。祖母も「何をされるかわからなかったので、おびえていた。」

と語っていました。その後、家族も一緒に捕虜になり、収容されたそうです。

やがて、日本も戦争に負け、祖父も祖母も無事に読谷に帰ってくることができました。しかし、戦後はほとんどアメリカ軍に占領されていたので、住む場所がなかったそうです。

私は、話を聞きながら、とても驚きました。当時の祖父母は、今の私よりも幼く、そんな幼いときに悲しい戦争を体験していたことが

コクヨ ケ-10 20×20

何よりも衝撃でした。

私は、沖縄生まれ沖縄育ちで、戦争のことを分かっていたつもりでいましたが

「まだまだ知らなければならないことは、たくさんあるのだ。」

と気づきました。

祖母、祖父は、話し終えた後、

「今は幸せ。何もかもそろっている。だけど、戦争を体験したんは、だんだん減っていく。伝えられる人も限られてくる。だから、次はあなたたちが伝えていく番だよ。」

と、私に思いを託すように話してくれました。

祖父母へのインタビューを終え、多くの学びがありました。祖父、祖母という身近な人にインタビューをすることで、戦争の生々しさが伝わり、戦争がいかに恐ろしく、むなしいものか知ることができました。

「平和、平和」と願っているだけでは、何も得ることなく、何も変えることはできません。私たちにできることといえば、戦争につ

コクヨ ケ-10 20×20

いて知ること、戦争の恐ろしさを後生に伝えていくこと、命を大切に、今を生きることなどが、平和につながると思います。

戦争の時代には、生きることすら難しいことでした。望んでいない戦争に巻き込まれてしまった人々のためにも、私は今日も明日も、これから先もずっと一瞬一瞬を大切に生きたいと思います。

あなたも、今この瞬間を大切に生きて下さい。